

寺子屋「うじたわら学び塾」冬季事業 活動レポート

人がつながる 未来につながる まちぐるみの教育

寺子屋「うじたわら学び塾」とは

昨年夏スタートした教育委員会主催の新事業です。学校の授業以外で、子どもたちが意欲的・主体的に学べる場所を創出したい。普段は会うことのない大人や高校生・大学生たちに囲まれ、学習のヒントや学び方を身につけるだけでなく、自分の力で生きぬいて行くための人間力を高めてもらいたい。そんな熱い思いが込められた学びの場です。

今回、冬休み期間を中心に、5つの講座を行いました。

どんな講座にどれくらいの人に参加したの

英 語	英語検定を目指して (1/4~6)	129人
漢 字	漢字検定 (1/28)	26人
冬のまなび	しめ縄教室 (12/26)	8人
	競技かるた&昔あそび (1/6)	30人
	冬の星空観察会 (1/6)	9人
合 計		202人

延べ参加人数

「冬のまなび」の様子と参加者の声をどうぞ

○しめ縄教室

垣内清市氏、脇田勝行氏を講師にお招きし、しめ縄の作り方を教わりました。作り方をマスターした保護者等が自然に子どもたちをサポートする光景をあちらこちらで見ることができました。お正月を飾る立派な作品がたくさん出来上がりました。

「しめ縄をつくるやり方がすぐにわかった」小4・男

「垣内先生から色々なものを教えてもらって、ごほうびに先生が作ったしめ縄をもらいました」小1・男

「作ってとても楽しかった」小3・男



○冬の星空観察会

阪本伊三雄氏をメイン講師に、宇治天体精機(天体望遠鏡を製造する町内企業)の協力も得て、観察会を行いました。

文化センターロビーで、天体についての予備知識を学び屋外へ移動。

寒い日でしたが、星空を見るには絶好の夜空で、月のクレーターもくっきりと見ることができ、参加者から歓声があがっていました。



○競技かるた&昔あそび

日本のお正月文化や遊びを体験してもらうべく2つの部門に分けて事業を行いました。

「競技かるた」では、講師としてお招きした京都府立大学競技かるた部のお兄さん、お姉さんによる競技かるたの実演を見学しました。その後、部員の皆さんによって、句をしっかり覚えてきた子どもたち、そうでない子どもたちいずれもが楽しめる競技大会を運営してもらいました。現役のかるた部員に真剣勝負を挑む者もいれば、トランプ遊び感覚で札を探す者もいたり、参加者全員が楽しめる内容でした。

「昔あそび」では、奥山田寿楽会の皆さんに、自らも懐かしい昔あそびの手ほどきをしていただきました。

めんこ、羽子板、あやとり、おはじき、だるま落としの5種目を体験する内容で、一つの種目にかたよることなく、どの種目もまんべんなく体験し、祖父母世代との交流を楽しんでいる様子でした。

「百人一首で16枚もとれて、遊びも楽しかった」小5・女

「羽子板がたくさん続いてよかった」小4・女

「百人一首は初めてだったけど、覚えることができて良かった」小3・女

「大学生も参加して楽しかった」小4・男

「いろんな昔あそびがあって良かったのと、かるたでは負けてしまいましたが、でもとても良かったです」小3・女

「いろんな昔あそびができたし、かるた大会もとても楽しくできた」小5・女

「昔遊びを教えてくれたおばあちゃんおじいちゃんが優しくかった」小3・女

